今村復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見

（平成28年12月３日（土）1215～1220　於）福島県郡山市）

１．発言要旨

今日は、ここ創造学サミットに来まして、正直言ってびっくりしました。こんなこと言ってはなんですけれども、もう少し子供たちが被災して避難して大変だろうなと思っていたんですけど、何の何のいろいろな意見を、そして、我々がおやっと思うようなことを的確に発表するので、すごいなと思いまして、私も本当に力を得た感じがします。

私も先程挨拶しましたが、一緒にいたのが小学４年の男の子ですけど、とてもかなわねえなと思うくらいです。だから、正に子供の未来は地域の未来と言いますが、こういう子供たちがしっかり育っていくように、これは我々の最大の責務だなということを改めて感じたところでございます。これからもいろいろまた地元からのお話等々も聞きながらしっかりとサポートをしていきたいというふうに思っております。

以上です。

２．質疑応答

（問）先程、おやっと驚くことがあったと、すばらしかったと言いましたけど、具体的に、いろいろな驚きがあったかと思うんですけど、一つ驚いた、こんなことを子供言うんだということがあれば教えていただけますか。

（答）例えば、葛尾中学校の提案にしても非常に具体的だし、そしてその地域が持っている良さというか、他にはない良さをしっかりつかんで、それを売り出そうとしているというのが非常にすばらしいと思いますね。

それから、大熊町の大野小学校にしても、こちらは小学生なんですが、あんなにしっかりした物の言い方が、考え方があるかと思って、本当にびっくりしたところです。

（問）避難指示が解除された楢葉町や南相馬市に来年、小中学校が元の自治体のところに戻っていくんですけれども、なかなか児童生徒数が戻らない。戻すために魅力的な事業づくりであるとか教育が必要になってくるのかなと思うんですけれども、復興庁として何か具体的に関わっていくお考えがあるかどうかというところをお伺いいたします。

（答）灯台もと暗しと言いますけど、やはり今言われた町や村の持っている良さというのを、まず地元の人が、今日の子供たちがアピールしたように分かってもらうこと。そしてまたそれを大人たち

が他と比べて、いや、すごいじゃないか、いいじゃないかということをしっかり自分でもう一回体得をして、それをしっかり発信していくということが大事なんじゃないでしょうか。今非常に画一化しているというか、日本中どこへ行ったって似たような建物とか似たような催しが多いでしょう。しかし、やはりこういう山の中の暮らしといいますか自然というかそういったものの良さというのは、これはなかなか人工的に造れるものじゃないですよ。これから先の人間の暮らしのあり方を含めていろいろ考え直す機会になるんじゃないか。そういうことをできるだけ世の中に発信をして一回行ってみようよ、進んでみようよというような気持ちになっていただくように我々もいろいろなアピールを応援してあげたいというふうに思います。

（問）今日は原発被災地の子供たちが中心、対象なんですけれども、この子供たちに将来どうあってほしいというふうに大臣はお考えになりますか。

（答）是非今日聞いたような活発さというか、元気さというか、たくましさというか、そういったものを是非失わないで、とにかく伸び伸び育ってほしいなというふうに思いました。だから、最初ちょっと言ったように、いろいろきつい目に遭ってきているから、少し大変かなということを心配していたんですけれども、決してそんなことはなかったので、いい意味での伸ばすというか、そういうところをこれからもっと力を入れんといかんなというふうに思います。

（問）所管としては文科省が中心になるのかなと思いますが、そこを復興庁としてどうサポートしていくというか、関わっていかれるお考えですか。

（答）今日は、文科省も来ていますが、文科省も見て分かったと思うけど、やはり現地に来て見ると子供たちがどんなに頑張っているか分かるでしょう。だから、ああいうのをしっかりつかんで受け止めて、いろいろなこれから政策づくり、プランづくりも是非やってほしいと思います。県庁の人や役場の人など大人から話を聞くより、今日は一番いい参考になったと思います。

（問）県庁や役場の人から聞くのは、いわゆる方策を聞くのが参考になったということですか。

（答）いえいえ、今も言いましたが、大人の固い頭で、文科省にこうしてくれ、ああしてくれと言うことよりも、もちろん、そういうことを文科省は普通に聞くんだけれども、それより今日みたいに実際現地に来て、子供たちがどういう考えを持っていて、また子供たちの才能といいますかタレント性をどう生かしていくか、そのためにはどうしたらいいかということをじかに聞くということ、

それが大事ということです。そういう意味では今日は非常にいい機会だったんじゃないかと思います。

（以　　上）